

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	特定非営利活動法人グループホームひまわり		
所在地	山口県長門市油谷伊上字中上り野2238		
電話番号	0837-32-1515	事業所番号	3591100031
法人名	特定非営利活動法人ひまわり		

訪問調査日	平成 19 年 11 月 8 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 4 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人 非常勤 6 人 (常勤換算 8,5 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造		造り	
	1 階建ての	~	1 階部分	

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	食費代に含まれる 円
その他の費用	月額 16,500 円			
	内訳 光熱費 日用品			

(4) 利用者の概要 (10月20日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	4	要介護 4		
	要介護 2	5	要介護 5		
	要介護 3		要支援 2		
年齢	平均 79.5 歳	最低	70 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 友近内科循環器科医院 歯科 無
-------------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	利用者が好きな金子みすずの詩「みんなちがってみんないい」が生活の中に溶け込み、利用者・職員共に認め合ったその人らしい生活が送られています。運営推進会議で要望のあったごみステーションについてすぐに検討し設置するなど、地域とのつながりもでき、会議の効果ががっています。外部研修にも出来るだけ多くの職員が受講できるように配慮し、質の向上を目指しています。
(特徴的な取組等)	保育園、小学校からの訪問、運動会、どんと焼き、草刈等の行事への参加など交流が盛んで利用者も大変喜ばれています。自然環境を活かし、散歩、野菜作り、花作りを通し、楽しみや生き甲斐作りの支援がされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	今回の評価が初めてで該当はありません。
(今回の自己評価の取組状況)	一部の職員で話し合い、自己評価を実施されています。
(運営推進会議の取組状況)	利用者家族代表、民生委員、自治会長、市職員、施設職員が出席し、2ヶ月に1回会議を開催しておられます。サービス内容や困っていることを話し合い、会議の中から毎月の法話、ごみステーションの設置が実現しました。緊急・災害時の対応についても議題が上がっています。
(家族との連携状況)	家族の面会時や電話等で生活状況や健康状態を伝えたり、意見や要望を聞き、またホーム便りや個別にインターネットでも様子を知らせています。
(地域との連携状況)	自治会に加入し地域の人々と交流することに努めておられます。散歩時に地域の人と声をかけあい、保育園や小学校の訪問や運動会、どんと焼き、草刈、お寺の法話会などに参加されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>住み慣れた地域のホームとして、その人らしい生活の支援を中心とした理念がつけられている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示し、ミーティング時に話し合うとともに、実践に向け取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、地域の人々との交流(保育園、小学校からの訪問や運動会、どんど焼き、草刈などの行事への参加、お寺の法話)に努めている。散歩時には声をかけあい、顔見知りになっている。事業所から地域住民に呼びかける行事は少ない。</p>	<p>・地域向けのホーム便りの発行</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>一部の職員で話し合い、自己評価している。</p>	<p>・評価の意義の理解 ・全職員での取り組み</p>
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>利用者家族、民生委員、自治会長、市職員、施設職員が参加して、2ヶ月に1回行っている。サービス内容、困っていることなど話し、毎月の法話やごみステーション設置とつながっている。</p>	<p>・会議参加メンバーの検討</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当者に実態を知ってもらうため、話し合いアドバイスを受けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時(1月に1回以上の面会あり)に、生活状況や健康状態、金銭出納を報告している。ホーム便り、個別にインターネット、電話でも様子を知らせている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話時に意見を聞いている。意見目安箱の設置、相談や苦情受付窓口や外部機関を明示し、入居時に説明しているが、第三者委員の選任や苦情処理手続きを定めていない。	・第三者委員の選任 ・苦情処理手続きの明確化
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日中8時間は3名以上の職員で、利用者の状況、家族の要望に応じた勤務体制を確保している。急な休みには職員の勤務交替で対応している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職は最小限になるように努力している。変わる場合には紹介を十分にし、少しでも早く馴染めるようにしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は勤務の一環として計画的に出席できるようにしている。研修にはできるだけ多くの職員が参加できるようにし、会議で研修後の伝達をしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に参加し、ネットワークづくりや勉強会など行っているが、地域の同業者との交流はしていない。	・同業者との交流(相互研修や見学)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に本人や家族がホームを見学し、他の利用者、職員と馴染み、どのように暮らすのが最良なのか、家族と話し合いをもっている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>調理、掃除、野菜作りなど一緒に行かないながら、植え付けや鍬の使い方、味付けや包丁捌きなどを教えてもらい、学び、支え合う関係で和やかな生活ができるよう支援している。</p>	
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居時の情報、日々の会話、面会や電話等に家族から思いや意見を聞き、利用者一人ひとりの思いや意向を把握できるように努め、家族を交え検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族からの思いや希望を聞き、サービス担当者会議でそれぞれの意見を出し合い、個別具体的な計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>1ヶ月に1回見直しのほか、変化が生じたときは本人、家族、関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>利用者の自宅近くで行なわれるお祭り(お大師様)や図書館の利用など、個別の外出支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用時に希望の医療や通院の仕方を確認し、適切な医療が受けられるように支援している。協力医の受診は職員が同伴し家族に報告している。かかりつけ医の受診は家族同伴で行っている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現時点において、重度化や終末期については考えていない。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしていない。記録物の取り扱いには注意をしている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩(日に数回)や買い物(週3回程度)、詩吟や編み物など、一人ひとりの希望に添って支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立、買い物、準備、後片付けなど利用者と一緒にしている。食事は職員も一緒に同じ物を食べながら支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日14時から16時まで可能である。仲の良い人同士と一緒に入浴することもある。入浴を拒む人に対しては無理強いせず、言葉かけなど工夫をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備や後片付け、畑作り、編み物、針仕事、詩吟、散歩、買い物など、楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブの支援をしている。1日に数回散歩したり、散歩時に立ち寄り場所がある。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備し、ミーティングなどで周知徹底し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。地域の人々の協力も得ている。(地域の方からの連絡で、事故に繋がらなかった。)	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを整備し、事故・ヒヤリはっと報告書に記録し、改善策を講じ再発防止に努めている。家族にも説明と報告をしている。洗剤や刃物などの保管に注意が払われていなかった。	・危険物の保管方法の検討
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり周知しているが、定期的訓練が行なわれていない。	・定期的訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルがあり、年2回火災避難訓練を実施している。地域への協力は働きかけていない。	・地域への協力依頼 ・避難場所の確認

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	看護師の管理の下で服薬の支援をしている。薬についての情報はファイルに整理し、全職員が薬について理解している。その都度手渡しし、服用を確認している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後声かけを行い口腔の清潔保持に努めている。歯ブラシ・義歯の清掃保管は利用者に合わせ支援している。自室で保管している場合は、毎日の清掃時に、職員がチェックしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を把握し、一人ひとりにあった支援をしている。	・栄養士による助言
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、感染症の予防を実行している。インフルエンザの予防接種を受けている。台所用品は毎日消毒、清掃し、食材の管理については衛生チェック表により注意し衛生を保持している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	行事や日常の写真、季節に合わせた掲示物を飾り、中庭に植えられた草花で季節感を味わい、ご飯の炊き上がる匂いや刻む音などで生活感が感じられる。不快な音や臭いは無かった。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	アルバムや本、使い慣れた家具など持ち込み、本人が居心地よく過ごせるようにしている。洋室でベットは備え付けであるが、畳も敷かれ布団での生活もできる。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	非営利活動法人グループホームひまわり
所在地	山口県長門市油谷伊上字中上り野2238番
電話番号	0837(32)1515
開設年月日	平成18年12月1日

【サービスの特徴】

「みんなちがって、みんないい」金子みすずさんの詩がみんな大好きです。ゆったりと楽しく自由にありのままに残された力で暮らしの喜びと自信をいつもと同じ、馴染みの環境、馴染みの人々との暮らし、あらゆる面で適度であることを決して忘れない人としての尊厳、春は小鳥の声で目覚め田植えから稲刈りまで毎日、目の前でお米が育ってゆく様子を目の辺りにしながらゆったりとした生活が出来るグループホームです。

自然の中の環境を活かし散歩、野菜作り、花作りを通して楽しみや生き甲斐作りをしています利用者の人格を尊重し利用者の立場に立ったサービス(個別の介護計画)を元に入所者の体調や気候を考慮しながら、生き甲斐のある過ごし方をさせていただけるよう努力しています。

【実施ユニットの概要】 (10月20日現在)

ユニットの名称	(NPO)グループホームひまわり					
ユニットの定員	9名					
ユニットの利用者数	9名	男性	名	女性	9名	
	要介護1	4	要介護4			
	要介護2	5	要介護5			
	要介護3		要支援2			
年齢構成	平均	79.5歳	最低	70歳	最高	89歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	一部の職員が関わり話し合い記入しました。
評価確定日	平成19年10月15日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		日々利用者に関わる際に理念を具体化して行く事を意識して取り組んでいきたい。
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		理念について職員間で話し合いの機会を持ち意識づけていきたい。
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		今後は地域住民に対しホームだよりを配布したり、折に触れて事業所の実践を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		ホームでは定期的に貼り絵や法話を開催しているため、今後は近隣に住むお年寄りにも呼びかけたい。
7	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		今度必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行っていない	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え全員で自己評価に取り組んでいきたい。
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	利用者家族、地域住民(民生委員、自治会長)行政の職員など幅広人立場の人が参加する会議とし参加メンバーの人々が意義や役割など十分に理解されている。	現在、取り上げた検討事項や懸案事項について、その経過を報告しあい、一つひとつを積み上げていきたい。
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所だけで抱え込まず、市担当者のアドバイスも受けながら考え方や、実体を良く知ってもらい課題解決を図って行く取り組みを行っている。	保険者として事業の推進においては重要な存在であり、これを期に積極的な連携に努めたい。
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現時点で関わっている人はいないが、知識として資料は整えてあり研修にも参加している者もいる。	職員の中には理解しない人が多く、今後は協議会が主催する成年後見制度の慣習に参加させたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時において不安や疑問点など、その場において十分な説明をしており、事業所のケアに関する考えや、取り組み等を説明し利用者の状態変化により契約解除に当たる場合は、家族を交え対応方針を相談している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度から思いを察する努力をし利用者本位の運営を心がけている。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	入所者全員の人が最低、月1回は必ず家族の面会がある。その時に状況報告を行っている。また個別にインターネットで近況状況が観覧でき、電話等でも様子を知らせている。瓦版も発行している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。			
18 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情の窓口があり契約書にも定時してある。		家族には訪問時等で何でも言ってもらえるような雰囲気作りには留意しているが、なかなか本音が出てこない、今後は家族会を設ける仕組みを作って行きたい。
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回、職員会議を設けケース検討や意見交換を行っている。		運労者、管理者は共に職員の要望や意見が聞かれるように心がけているが、不満や苦情は言い難い部分もあり把握しきれていない可能性もある。
20 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	個々の状況や状態に合わせた勤務調整を行っている。		
21 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	頻繁な職員交代については家族等が不安や不満を持ち易い部分ではあるが、職員の無資格や病欠等は別として、最小限に抑えている。また新しい職員が入る場合も利用者きちんと紹介している。		
5. 人材の育成と支援			
22 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会に加え職員が日々の体験を学びに繋げて行くための「働きながら学び」の機会が必要であり、現場で共に考え助言している。また研修にはなるべく多くの職員を受講できるようにしている。		研修報告は毎月の合体会議で発表してもらい研修報告書を全職員が閲覧できるようにして行きたい。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。			
24 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。			他のグループホームへの見学や事業所外の交流や、意見交換の場を早急に着手して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		職員が向上心を持って働ける。職能評価を行ってゆきたい。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		今後着手して行く
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		必ず本人に会って、心身の状態や本人の思いに向き合い職員が本人に受け入れられるような関係作りに勤めている。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		これまで家族の苦労、今までのサービス利用状態を、ゆっくりと聞くように勤めており話を聞くことで落ち着いてもらい次の段階につなげている。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		相談にこられる人の中で、グループホーム対応でないと見極めた時には、他の機関等へ紹介を行うなど配慮はしている。
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		家族の状態での利用が急がれる場合にもホームに来てもらい、短時間でも寄添いながら、その中で馴染みの物、使い慣れた物等を 家族と話しながら安心感を与えて行く努力はしており、家族やそれまで関わってこられた人達に来てもらうようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		ホーム外の一角の畑は、四季折々の野菜畑である。若い職員は鍬の使い方さえ知らない人もある中、利用者達は宝の宝庫の役割をする。利用者から学び、支え合う関係で暮らしの中での心身の力を発揮できる関係作りに留意している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	サービス担当者会議の中で、それぞれの意見を出し合い、本人家族からは、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。	
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し状態が変化した際には、終了する前であっても検討見直しを行っている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員の気付きや利用者の状態変更は、個々のケア記録に記載し職員間の情報共有している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域で暮らせるよう地元の民生委員、自治会長と意見交換で出来る期間を設けている。図書館等へは時々活用している。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	グループホームひまわりの開設時においては、地域住民へ開放し講師の下、認知症の介護教室を開いた。	今後は地域の老人会にグループホームのグラウンドを開放し入所者と一緒にゲートボール等が出来ればと考えている。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	地域の図書館や社協が開催している福祉祭り等に参加する。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		今後必要と思われる。
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		今後必要と思われる。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		今後必要と思われる。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		今後必要と思われる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを損ねるような言葉かけはしていないが今後、利用者の記録の保管等には十分な注意を払いそこからプライバシーが洩れないように着手して行く必要がある。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者に合わせて声かけ、意思表示が困難な人には、表情を読み取ったりし本人が決めやすい場面を作っている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>利用者は、自分ひとりで役割の場面を旨く作れないが、身体で覚えこんだ記憶、昔とった杵柄は豊富であり、毎日の暮らしを共にする中で、一人ひとりにあった役割を行っている。</p>	
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>買物や散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら対応している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の望む美容院にお連れする事は事実上不可能であるが 地元の美容室へ希望があればお連れして、カットやパーマ、毛染めをしている。</p>	
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>買物や食前後の手伝い利用者個々の力を活かしながら一緒にしており中には見守りの支えがあれば力を発揮出来ることが沢山ある。利用者と同じものを楽しく食べる事に意義がある。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>コーヒーや甘酒、季節季節の果物など状況に合わせて、それらを楽しめるよう支援している。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>今現在、紙パンツから布パンツに移行した人が2名おり、ここに合った排泄パターンを把握して、トイレ誘導をするようにしている。(尿取りパット使用)</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		利用者の中には詩吟を日々練習する人がおられ色々な場面で発表してもらい、それが生甲斐になっている。
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	今後必要と思われる。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルを備えてあり周知徹底を図っている。		身体拘束に関する勉強会を、今後実施し共有認識を図りたい。
75 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が外に出る場面や理由、行き先などを知る事が大切と思う。また鍵をかけずに安全面に配慮し自由な暮らしを支援している。		
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の所在や様子確認は常にしている。外出においても、その場の人数確認や安全面にも気配りしている夜間は1時間ごとに様子確認をしている。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	鋏、針、ホリソ、磨き粉など個々に合った対応を必要としており危険性のある人、出来ない人においては、ホームの方で一律に管理してある。		
78 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	万が一の事故発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し事故原因や予防対策について検討し家族にも説明報告している。		
79 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを備えてあり周知徹底を図っている。		
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書を備えており改善策も記載している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法をも身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		定期的な消防訓練を行っている。 (マニュアルは整えてある)	運営推進会議の中で地域の民生委員、自治会長の働きかけで、話し合いが進んでいる最中である。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		今後必要である。	この人には、この様なリスクがある事を、きちんと家族に説明が出来るよう職員間で話し合いリストを作成して行き家族に説明して行きたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		体調変化の早期発見と対応 午前10時、午後19時には、毎日バイタルチェックを行いグラフで分かりやすく記載しており、日々の状態把握に努めている。また状況により医療受診につなげている。	
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		服薬支援 看護師の下、服薬管理はなされており、職員も用法や要領は理解している。必要時は看護師がドクターや薬剤師にフィードバックしている。	
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		便秘の予防と対応 予防として果物や飲み物、野菜など繊維の多い食物を摂取し、水分を十分取るよう心がけている。また散歩、家事活動など身体を動かす機械を設けて自然排便できるよう努力している。	
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		口腔内の清潔保持 食前後においての口腔ケアは、その人の力に応じて支援しており保管場所も備えてある。 (一人ひとりのチェック表を整えてある)	
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		栄養摂取や水分確保の支援 量が決まっている人においては、計量的に行っており体調運動量、介助の方法や食器の工夫など全体を通して食欲を促し食が進むような工夫を日々努力し、水分補給も画一的に行うのではなく、一人ひとりにあった支援をしている。	
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		感染症予防 マニュアルを作成してあり早期発見、早期対応に努める。また家族の同意を得てインフルエンザの予防接種を受けている。	
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		食材の管理 関わった職員は、毎日の消毒は欠かさず行っており衛生チェック表を元に記録として記載している。また食材料は新鮮で安全な食材料を使用するため、毎日買物に出かけ、なるべく買い溜めしないよう心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関迄にはスロープや手摺りが設置しており、入り口には手作りの案内板を掲示しベンチなど置いている。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ご飯の炊き上がる音や包丁の音で生活観を味わい、ホール横の吹き抜け部分で、季節感を感じたり光などは、その時の状態で明るくしたり暗く出来るよう配慮されており、五感や季節感を取り入れる工夫をしている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや和室などの工夫がなされており和室でゆったりとテレビ鑑賞もでき、その人の状態にあった工夫がなされ絵画や「みすずの詩」などで居心地の良い空間がある。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	在室で、今迄使っておられた物、例えば(布団・枕・タンス・アルバム・本)など馴染のものを置いてもらう工夫はしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	冷暖房完備、換気においても、ホールまた居室と個々の状態に合わせ、こまめに調整でき、トイレには換気扇と消臭剤で悪臭が出ない工夫をしている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるよう工夫している。	出来る限り自立した生活を送って頂けるよう、手摺り、段差解消、歩行器などが配備してあり安全確保と自立への配慮をしている	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人にとって何が分かりにくいのか、どうしたら自力で出来るかを追求し状況に合わせて環境整備に努めている。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保、利用者が日常的に楽しみながら活動できる環境を造っており、玄関先にはベンチを置いて涼んだり、日向ぼっこが出来るよう工夫している。	推進会議にて検討中であるが運動場が広いので、地元の老人会に開放しゲートボールを入所者と一緒にしたらどうかと云う話し合いが現在進められているところである。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない